

2015/03/08 アイアンマン 70.3 in Philippines 参戦記

南十字星はわからなかったけど Subic bay // // Mar 8 2015.

松田 知之

2015年、今年はミドルで一発狙うつもりでアジアの ironman70.3 にエントリーしまくって、第一段がフィリピンマニラ郊外 100kmほどにある Subic 大会です。

フィリピンに慣れとかなあかんと2月にも個人合宿？(単なる観光?)でマニラを下見する念の入れようでレースに臨む。家を出るときも、帰って来たときも京都は雪でしたが、フィリピンは連日 30 度越えの猛暑。バイクもロングライドはほとんどできず、スイムははなから練習嫌い。肝腎のランも気温が3° と30° ではまるで別世界です。

完全 away 状態での戦いを覚悟で臨んでいきなり KIX で出ばなをくじられました。フィリピンエアーのカウンターのお姉さん。「7kg オーバーですので2万円超過料金です」こちとら搭乗時間がさしせまっています、今更スーツケースぶち開ける気にならずしぶしぶお支払い。

マニラについたら着いたでまたタクシー代を相場の10倍ほどでふっかけられます。マニラからは長距離バスで5時間ほど揺られ olongapo まで(飛行機は3時間半で着いたのに)、途中、第二次大戦中「バターン死の行進」の目的地サンフェルナンドを通ってピナツポ火山の近くの、元米国海軍基地 Subic bay に到着。

大会は今年が初めての ironman70.3 ということでしたが非常によくオーガナイズされており、バイクコース誘導もよく洗練されていて全くストレスがありませんでした。

高校生のお兄ちゃんお姉ちゃんたちもいっぱいボランティアで動員されています。ゼッケンシールまで貼ってもらってツナ缶スポンサーのためか山ほど缶詰、その他お菓子やら日焼け止めやらいっぱいのお土産。小腹がすけばホテルの周りは日本のコンビニがいっぱいです。

肝腎のレースですが、6:30 スタートの湾内を1周回 1.9km スイム。ほとんど波もなく、水深も2から4mほどで珊瑚やら魚やらとてもきれいです。もちろんウエットは禁止。

バイクコースはエアポートの滑走路スタートしてからの高速道路 2 車線閉鎖しての高速コース。高度もピーク



170mほどで何度かアップダウンありましたが、それほど苦になりません。エイドも適切に配置されており、どっかの国の ironman のように180° 回転の連続なんていうふざけたものでなく十分楽しめます(ポーっとしてたので drafting を生まれて初めてとられました)。

ランに入ったところから日差しがじりじりと照りつけてきますが、エイドは 13 箇所もあり、登りも 50mほどの台地を 2カ所ほど越えるだけです。

今年からエイジ 50-54 台での参加となり、エントリーしていたのは 30 人ほど。実際に出場したのは 20 数名でも 5位がやっと。本気のゲルマン野郎にはとても追いつけないのでした。それでもバナナの叩き売り状態でのロールダウンでスロット獲得。やれやれ最低限の結果はいただけたかなというのが本音です。

よかったことは、レースが終わったらビール飲み放題、食べ物食べ放題です。参加者 800 人ほど。スロット狙いにはもってこい。地元フィリピン、シンガポール、マレーシアなどの富裕層が結構出場していて、晩ご飯までごちそうになりました。基本フィリピーノは陽気で英語は普通に話してくれます。

よくなかったことは、泥棒さんには要注意。あまり物価のちがいを感じなかったというか、あちこちで外人価格でぼられまくりました。(まあ善良な献金者としてがまんしましょう)。水の違いかおなかが痛くなって困りました。

マニラから時間がかかりますが、それなりに時間がある方ならアンヘレスも近くにあるシナイトライフも充実です。レース以外でもフィリピンの国情を垣間みるという点では非常に有意義な海外遠征でした。(第二段に続く…といけれど)

